

① 中山間地域の基幹産業である農林水産業が高齢化や後継者不足により衰退が続き、農林水産業の基盤整備を行いたくても財政的に余裕がない状態にある。

② 効率的な連携方法を模索している。

③ 観光による交流人口の増加に期待しているが財政や他市町村との競合などの問題により効果や採算性に不安を持っている。

④ 中山間地域の基幹産業である農林水産業振興のためには、グリーンツーリズムや交通基盤整備が必要不可欠と考えている。

⑤ ある市町村だけの「点」の観光開発でなく、複数市町村が協力し合うことによる「線」の観光開発を考えている。

⑥ 財政基盤が弱いために交流や連携ではなくお互いにものを補完し合うことを期待しつつ、その一方で他市町村の情報の少なさや意見調整に不安や問題を抱いている。他市町村との積極的な情報や意見の交換の必要性がある。

4. 地域構造分析

1) 主成分分析

地域構造を分析するため、人口・面積・財政等経済基本指標、農林及び工業生産力指標、商業販売力指標、文化・厚生指標等 21 項目を基に主成分分析を行った。その結果を表・3 に示す。累積寄与率は第 6 主成分までで 88.7% に達し、変動のほとんどが説明できる。

表・3 主成分の解釈

主成分	名称	解釈
第1主成分	都市的活動	人口、可住地面積、宅地、3次産業、生産額(農業・商業・工業)、医療施設、医師数、財政力指数と相関が強いことから都市的活動を示すと思われる。
第2主成分	山村の活動	面積、高齢化率、山林・原野、1次産業、自市町村での就業就学率が高いことから、山間地で1次産業(林業)の活動を示すと思われる。
第3主成分	農村的活動	田畑、1次産業、実質収支比率と相関が強いことから、1次産業(農業)の活動を示すと思われる。
第4主成分	商業的活動	2次産業、商業生産額、他市町村への通勤通学率と相関が強いことから他の地域に依存した2次産業活動を示すと思われる。
第5主成分	医療活動	人口千人当りの医師数と相関が強いことから、医療活動を示すと思われる。
第6主成分	財政状況	実質収支比率と相関が強いことから財政状況を示すと思われる。

2) クラスター分析

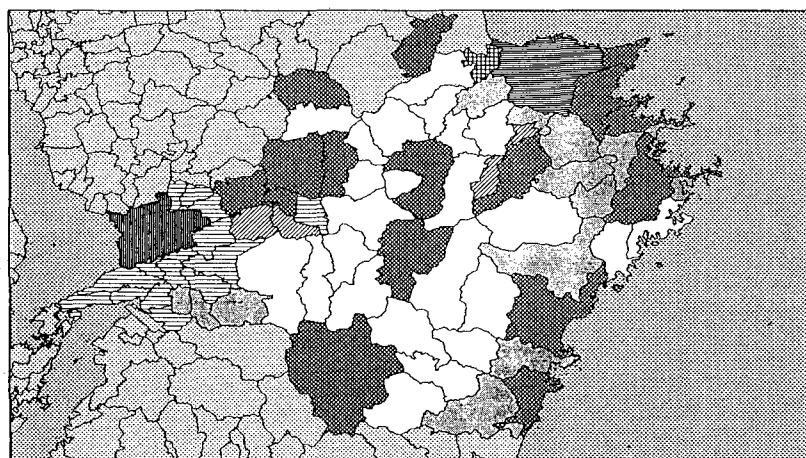
1) により得られた主成分をもとに Ward 法でクラスター分析を行った。得られたデンドログラムにしたがって市町村を分類すれば、図-3 が得られる。

宗太郎峠で大分県と宮崎県はお互いに背を向けているといわれている。しかし、地域構造は宮崎県北部地域と大分県とは非常に似た構造を持っている。また熊本市周辺の熊本都市圏は一種独特の構造を持っている。

5. まとめ

本研究では、地域構造上は宮崎県北部地域と大分県とは非常に似た構造を持っているが、意識構造上、自市町村にはないものを求める傾向が強い。そのため、一種独特の構造を持っている熊本県との連携・交流を望む傾向にあることが解った。

今後さらなる地域構造による意識分析を行っていきたい。



- 地方中核都市型地域
- 地方中心都市型地域(中都市)
- 大学依存型地域
- 農山村型地域
- 財政逼迫型地域
- 近隣都市依存型地域
- 中核都市吸収型地域
- 地方中心都市型地域(小都市)

図-3 対象地域のクラスター分析による分類